

## 既発表の論文一覧

本書中、収めた既発表の論文は以下の通りである。収めるにあたり筆削を加えた。本書における所在は各項目末尾の括弧内に示す。

「文字分析による『和漢朗詠集』雲紙本と関戸本との関係」(『語文』第13輯 平成14年6月 日大国文学会)【第一章第一節】

「『和漢朗詠集』雲紙本と関戸本の関係」(『日本語と辞書』第2輯 平成9年5月 古辞書研究会)【第一章第二節】

「雲紙本和漢朗詠集にみられる別筆」(『語文』第107輯 平成12年6月 日大国文学会)【第一章第三節】

「伊予切和漢朗詠集の書に関する一考察」(『語文』第121輯 平成17年3月 日大国文学会)【第二章第一節】

「『和漢朗詠集』伊予切〈第一種〉の書―粘葉本との関係―」(『語文』第149輯 平成26年6月 日大国文学会)【第二章第二節】

「『和漢朗詠集』伊予切〈第一種〉と粘葉本の書に関する一考察」(『お茶の水女子大学人文科学研究』第12巻 平成28年3月)

## 【第二章第三節】

「近衛本『和漢朗詠集』の性格―粘葉本系統との関係を中心に―」(『書学書道史研究』第24号 平成26年10月 書学書道史学会)【第二章第四節】

## 【第二章第四節】

「『和漢朗詠集』伊予切の性格―粘葉本との関係を中心に―」(『語文』第153輯 平成27年12月 日大国文学会)【第二章第五節】

「安宅切『和漢朗詠集』の位置」(『語文』第117輯 平成15年12月 日大国文学会)【第三章第一節】

「卷子本『和漢朗詠集』の位置」(『語文』第122輯 平成17年6月 日大国文学会)【第三章第二節】

「葦手本『和漢朗詠集』の位置」(『中古文学』第61号 平成10年5月 中古文学会)【第三章第三節】

「十二世紀書写とされる『和漢朗詠集』諸伝本について―葦手本を中心として―」(『書学書道史研究』第16号 平成18年9月

書学書道史学会)【第三章第三節】

「唐紙切『和漢朗詠集』の位置」(『大学書道研究』第13号 令和2年3月 全国大学書道学会)【第三章 第四節】

「戊辰切『和漢朗詠集』の位置」(『語文』第114輯 平成14年12月 日大国文学会)【第三章 第五節】

「戊辰切『和漢朗詠集』の位置——書・書写内容に関する考察——」(『大学書道研究』第12号 平成31年3月 全国大学書道学会)

### 【第三章 第六節】

「『和漢朗詠集』葦手本と戊辰切卷上の書に関する考察」(『語文』第138輯 平成22年12月 日大国文学会)【第三章 第七節】

「山城切『和漢朗詠集』の本文」(『語文』第102輯 平成10年12月 日大国文学会)【第三章 第八節】

「久松切『和漢朗詠集』の位置」(『語文』第119輯 平成16年6月 日大国文学会)【第三章 第九節】

「下絵切『和漢朗詠集』の位置」(『書学書道史研究』第30号 令和2年10月 書学書道史学会)【第三章 第十一節】

## あとがき

平成二十九年（二〇一七）八月、お茶の水女子大学附属図書館にお世話になり、拙著『平安時代書写 和漢朗詠集諸伝本の研究』を出版して頂きました。この度、そこに補訂を施し、新たに書き起こした拙稿（三篇）を加え、書名を変えて再び公開して頂くことになりました。

出版にあたり、浅田徹先生に大変お世話になりました。餌取直子様（お茶の水女子大学附属図書館）にもご尽力頂きましたこと、末文ながら厚く御礼申し上げます。

本研究はJSPS学術研究助成基金助成金JP15K02214の援助を受けたものです（『和漢朗詠集』諸本の集成と研究）・基盤研究（C）。

令和三年（二〇二一）二月

山本まり子

## 平安時代書写 和漢朗詠集 校異と研究[研究篇]

2021 年 3 月 31 日 発行

---

著 者 山本 まり子

発 行 お茶の水女子大学附属図書館(E-book サービス)

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

<https://www.lib.ocha.ac.jp/>

電話 03-5978-5835 FAX 03-5978-5849

**ISBN 978-4-904793-27-5 C3071**

本著作の著作権は著者が保持しています。著作権法上の著作権の制限を超える利用については、お茶の水女子大学附属図書館にお問い合わせください。